

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権上の都合により未掲載

著作権上の都合により未掲載

- (注)
- ※1 凡庸……ありふれていてすぐれたところのないこと。
 - ※2 希薄……少なく薄いこと。
 - ※3 嬌声……かんだかい声。

- ※4 くびき……自由をしぼるもの。
- ※5 先鋭……考え方が過激なこと。
- ※6 歯牙にもかけない……無視して問題にしない。

問1 線①～③の漢字と組み合わせる二文字の熟語を作ることができる文字を、次のア～コの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア	意	イ	品	ウ	棒	エ	努	オ	間
カ	保	キ	会	ク	司	ケ	期	コ	日

問2 Aにあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	じっとしている	イ	ぼんやりしている	ウ	落ち着きがない	エ	がまんづよい
---	---------	---	----------	---	---------	---	--------

問3 線(1)「目につく」のように「～につく」という慣用的な表現として適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	身につく	イ	鼻につく	ウ	耳につく	エ	首につく
---	------	---	------	---	------	---	------

問4 ———線(2)「子供を落ち着かせるための引力」を大人が持つためには何が必要だと考えられますか。本文中から三十字で見つけ、最初と最後の三字をぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

問5 ———線(3)「神経がさわさわする」とはどのようなことを意味していますか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 興奮や期待などで心拍しんぱくが早まる
- イ 気がかりで言動が落ち着かない
- ウ 気持ちが逆などでされていらだつ
- エ 恐れや不安などによりおののく

問6 ———線(4)「一見、ホームにならんでかたまっているが、何らまとまりがない」とありますが、子供たちがそのような様子でいるのはなぜですか。その理由を述べた次の文の I ・ II にあてはまる言葉を本文中からそれぞれ五字でぬき出して答えなさい。

ホームにならんでかたまっている子供たちは、自分の I にしか関心がなく、またそれを II と思っているから。

問7 B にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私的な
- イ 公的な
- ウ 見苦しい
- エ 目新しい

問8 ———線(5)「子供なりの努力」とありますが、どうしてそのように言えるのですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 机の落書きやノートの折り紙によって自分ができる限り授業を聞いていることを先生に伝えようと思っていたから。
- イ 授業中に机の落書きやノートの折り紙をしていたけれど授業を受けたくないとは一度も思ったことがなかったから。
- ウ 机の落書きやノートの折り紙をすることで注意力散漫な自分を落ち着かせて授業に注意を向けようとしていたから。
- エ 勉強には興味もてないながらも机の落書きやノートの折り紙をすることで授業中は席に座って参加していたから。

問9 線(6)「大人も」のあとに省略されている言葉を、次の□にあてはまるように本文中から十字以内でぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

大人も □ である。

問10 本文で筆者の言いたいことはどのようなことですか。もつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子供たちの落ち着きのなさは外の世界との関係を失ってしまったからであり、まずは大人が子供たちの手本となるように多すぎる欲望を整理しなければならない。
- イ 子供たちの落ち着きのなさは大人の姿の反映であり、よりよい未来の社会を築くにはじっと電車を待つような落ち着きを大人も子供たちも持たなければならぬ。
- ウ 昔の子供も勉強には興味がなかったけれども今の子供たちのように授業が成り立たないということはなかったので、昔のように落ち着きを持たなければならぬ。
- エ 大人が社会に対する関心を失ったことが子供たちにも伝わって外の世界に対して無関心になったので、大人と子供たちとが協力して社会を作らなければならない。

二 次の記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権上の都合により未掲載

著作権上の都合により未掲載

問1

A

にあてはまる言葉を本文中から漢字一字でぬき出して答えなさい。

問2

B

・

C

にあてはまる言葉を次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しづとい

イ なさけない

ウ おそろしい

エ あつかましい

オ みつともない

問3

線(1)「あつたりまえだろ」とありますが、どのようなことに対して「あつたりまえ」と言っているのですか。もつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 草をかりはじめると先生という立場をわすれてしまうこと。

イ 草をかり取っている先生の家が先祖代々の農家であること。

ウ 草をかる自分のかっこうや動作がとても手慣れていること。

エ 草をかる時の自分が農家の人そっくりになっってしまうこと。

問4

線(2)

「血がさわぐ」の本文中の意味としてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どきどきする

イ わくわくする

ウ そわそわする

エ はらはらする

問5

線(3)

「やけに力をこめて」とありますが、「先生」がこのように言ったのはなぜですか。その理由としてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 先祖代々農業をしている自分の家をほこりに思い、ニッポンジンはもともと農家の出身であるということ
をわからせたいから。イ 農業をいとなむニッポンジンが減ってきたために、自分の名字の由来を知らない子供が増えてしまったと
腹を立てているから。ウ 植物と人間には深い関わりがあることを教え、土と緑にふれるのはニッポンジンとして当然の義務である
と理解させたいから。エ 土と緑にふれて生きてきたニッポンジンとして、その本来の生き方が身近でなくなってきていることを残
念に思っているから。

問6

線(4)

「なんだ、それだけ」とありますが、この言葉にこめられた「ぼく」の気持ちとしてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 花だんの草とちがって花が美しくないと理由だけの理由で雑草をサベツしていると知りいやになった。

イ 花だんの草とちがって雑草が大事にされない理由があまりにも単純なものだったことにながっかりした。

ウ 花だんの草と雑草は花の美しさがちがってはいっても同じ仲間であるということがわかってほっとした。

エ 花だんの草と雑草のちがいについて先生から納得できる説明をしてもらえなかったので不満に思った。

問7 ——線(5)「少しこまった顔」とありますが、「先生」のこのときの気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 予想しなかった反応が子どもたちから返ってきたのでとまどっている。
- イ 栗田が自分をやりこめて草むしりをさぼろうとしていると疑っている。
- ウ 自分たちの勝手な都合で雑草をひどい目にあわせたのをくやんでいる。
- エ 先生である自分が子どもたちから教えられたのではずかしがっている。

問8 D にあてはまる言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どっしり イ ゆったり ウ ちゃっかり エ しゃっきり

問9 ——線(6)「いいなあ」とありますが、この言葉にこめられた「ぼく」の気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が雑草とたたかって勝ったことを通して前より強くなったことをよるこんでいる。
- イ 強いだけではなくみかけもかっこいい雑草のような人間になりたいとあこがれている。
- ウ 雑草にくらべるとあまつたれていたこれまでの自分を変えていきたいと決心している。
- エ 小さな場所にたくましく生きる雑草の姿に気づき自分もそうありたいと共感している。

問10 本文の表現上の特色を説明したものとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 学校の周辺の情景や登場人物を生き生きとえがくことによって、身近にある植物や現代という時代のあり方について考えさせる、冷静で写実的な表現である。
- イ 会話を多く用いて先生の心情を重点的にえがくことによって、先生の人生観や子供たちに対する熱い思いが切実に伝わってくる、簡潔で力強い表現である。
- ウ 日常なにげなく交わされる会話のやりとりをえがくことによって、登場人物それぞれが考えを深めていく様子が印象に残る、平易で生活感豊かな表現である。
- エ 植物をまるで人間であるかのようにたとえてえがくことによって、人間の自然に対する身勝手さを間接的に批判している、複雑で皮肉のこもった表現である。